

Primary Exploration of *Ratnameghasutra*

〈in Japanese〉

Dramdul

Professor, China Tibetology Research Center

〈Translated by〉

Xuezhu Li

Researcher, China Tibetology Research Center

Manning Li

Research Assistant, Research Center for World Buddhist Cultures,
Ryukoku University

Abstract

Ratnameghasutra is an important scripture in Early Buddhism. Now the existing texts include Sanskrit manuscript, Tibetan version and Chinese version. The Sanskrit manuscript is refounded in Potala Palace after disappearing for a long period and is bounded to open up a new way for the research of *Ratnameghasutra*. This present studies the three texts of *Ratnameghasutra* and their status and influences in Buddhism, and suggests that *Ratnameghasutra* is very unique and important for Buddhism of three language families, especially in Tibetan Buddhism *Ratnameghasutra* played an important role for the formation and the development of doctrines, and the Tibetan version has enriched Tibetan Buddhism terms.

要 旨

『宝雲經』はインドの初期大乘仏教の重要經典であり、現在、梵本と蔵・漢訳本がある。その梵本は長年逸失していたが、ポタラ宮において発見された。ポタラ宮梵本の発見は、学界に対してこの伝本に対する研究を開いた。本論では、『宝雲經』の上記三種言語の伝本及びそれらの仏教における位置づけと影響について予備的考察を行った。

『宝雲經』の、三大語系仏教における地位は独特であり重要である。特にチベット仏教の教義・教理の形成と完備に非常に重要な役割を果たし、その蔵訳本の翻訳は、チベット語の經典教義用語の内容を極めて大きく、豊かにしたと考えられる。

『宝雲經』の予備的考察

鄭堆 (李 学竹・李 曼寧 訳)

キーワード: 『宝雲經』、梵文写本、蔵訳本、漢訳本

前書き

『宝雲經』はインド初期仏教の重要經典である。チベット仏教において、『宝雲經』は極めて重要視されている。『語合二章』⁽¹⁾『翻訳名義集』等の記述から、『宝雲經』はチベット仏教の教義に非常に重要な役割を果たしただけでなく、同時に仏教經典の蔵訳にも積極的な影響を与えたことが窺える。『宝雲經』の梵文原本 *Ratnameghasūtra* は長い間逸失していたため、学界はかつてこの經典はもう存在していないと考えていた。しかし幸いなことに、この經典の梵文写本がラサで発見されて、学界と宗教界の極めて大きな注目を集めてきた。現在、中国蔵学研究中心が専門家を組織して、所蔵する『宝雲經』の影印本に対する研究に取りかかっている。本論では、この經典の研究の進捗状況を簡単に「予告」し、関連するチベット語資料について検討を行う。

一、『宝雲經』概説

『宝雲經』はインドの初期大乘仏教の重要經典の一つであり、仏教思想の形成に重要な影響を与えた。寂天大師 (Śāntideva シャーンティデーヴァ、685–763CE) が著した『学処要集』 (*Śikṣāsamuccaya*) の中に、『宝雲經』の引用は 30 か所以上あり、蓮華戒大師 (Kamalaśīla カマラシーラ、740–795 CE) の『修行次第』 (*Bhāvanākrama*) の中にも、十数回引用されている。ある学者たちは、この經典は、『学処要集』 (*Bhāvanākrama*)、『入菩薩行論』 (*Bodhisattvacaryāvatāra*)、『入中論』 (*Madhyamakāvatāra*) などの多くの重要典籍に引用される根本的な經典であると考えている⁽²⁾。

『宝雲經』は主に登地菩薩の修行を述べ、仏陀が、除蓋障菩薩 (byang chub sems dpa' sGrib pa thams cad rnam par sel ba) に問いかけられた百問題を解答したことで成立した一部の經典である。その内容は、菩薩が具している行徳を細かく説明している。除蓋障という菩薩が娑婆世界に来て、釈迦牟尼仏に対して菩薩の行徳を尋ねた。その質問は併せて百余問があり、十波羅蜜 (pāramitā)、十二種類の苦行 (dhutaṅga)、空・無相・無願

⁽¹⁾ Derge 目録 p.669, no.4347 を参照する。また『語合二卷』とも訳す。

⁽²⁾ pp.156–157, in –Pagel, Ulrich. “The Dhāraṇīs of Mahāvīryapatti #748: Origin and formation.” *Buddhist Studies Review* 24.2 (2007): 151–91 に参照。

の三解脱門 (trīṇi vimokṣamukhāni) から、世俗諦と勝義諦の了達、縁起の善解、そして、最終的にいかにして速やかに阿耨多羅三藐三菩提を証得するかということまでの、菩薩道修行のほぼすべての内容について言及がなされている。

二、三大語系中の『宝雲經』

1、梵本

『宝雲經』梵本のタイトルを *Ratnameghasūtra* といい、一度逸失して行方不明となっていたため、学界ではこの經典の梵本はもう存在していないと考えられていた。やがて、この梵語写本がチベットのポタラ宮において発見され、大きなセンセーションを引き起こした。今、既に当該經典の校訂研究を行っている学者が存在し、彼が専門的に論文を公刊する予定なので、本論では告知と略述を行うことにとどめる。跋文の内容によれば、この梵本『宝雲經』はインドパーラ王朝のゴーパーラ王の在位 13 年目に書写されたことがわかる。この国王の在位年代についてはなお異説がある。ある学者は、この写本はポタラ宮蔵『維摩經』と同時期に書写された經典であると考えている。『維摩經』はゴーパーラ王の在位 12 年目の時に書写が完成し、その原典の成立は西暦 1~2 世紀の間であったと推測される。『宝雲經』の成立の確実な年代は未だ考証を要する。

今チベットに現存している梵本『宝雲經』は、20 世紀、1980 年代、中国蔵学研究中心が関係者に依頼しチベットにおいて梵語經典の資料収集を行っていた時に発見された。当時作成した「羅昭目録」⁽³⁾の中に関連記述がある。それ以前のチベット梵語貝葉經の目録 2 部、即ち「羅睺羅目録」⁽⁴⁾と「王森目録」⁽⁵⁾の中では、いずれもこの經典は見当たらなかったのである。今現在、チベット現存梵語貝葉經原本は不公開のため、調査研究には、中国蔵学研究中心所蔵の影印本 (CTRC 影印本) によるしかない。貝葉の上のページ数表記によると、この梵本には 73 葉があったはずである。そして、CTRC 影印本は、その初期の資料調査の結果によれば、18 葉が欠けている。しかし、まさに最近、台湾人学者、ミュンヘン大学研究員の自運法師が中国蔵学研究中心所蔵の影印本文献資料に対し調査を行ったところ、他の文献から、上記の梵本『宝雲經』の一部であ

⁽³⁾ 「羅昭目録」は、羅昭氏がノルブリンカ宮所蔵写本情報を記した「羅布林卡所蔵貝葉經目録」と、ポタラ宮蔵本情報を記した「布達拉宮所蔵貝葉經目録」からなり、まだ出版されていない。文献タイトル、葉数、装飾画の有無、寸法、書体、奥書の内容などの情報を詳しく記録されている。

⁽⁴⁾ Rāhula Sāṅkrtyāyana, “Sanskrit palm-leaf Mss. in Tibet”, JBORS 21, 1935, pt.1, pp. 21-43, “Second Search of Sanskrit Palm- leaf Mss. in Tibet”, JBORS 23, 1937, pt.1, pp.1-53, “Search for Sanskrit Mss. in Tibet”, JBORS 24, 1938, pt.4, pp.137-163.

⁽⁵⁾ Haiyan-Hu-von Hinuber, Freiburg Some Remarks on the Sanskrit Manuscript of the Mūlasarvāstivāda-Prātimokṣasūtra found in Tibet. JAINA- ITIH ĀSA-RATNA Festschrift für gustav Roth zum 90. Geburtstag. INDICA ET TIBETICA VERLAG MARBURG 2006.

るべき 3 葉を発見した。これで、学界が把握できる梵本『宝雲經』の内容は、なお 15 葉が欠失となっているのである。

2、蔵訳本

関連史料の記述によれば、チベットの仏教經典の翻訳は第三十三代吐蕃贊普（吐蕃王）ソンツェン・ガンポ時期（617?–650）から始まり、また当時、大訳経師トンミ・サンボータなどの訳経師も現れた⁽⁶⁾。『宝雲經』がいつチベットに伝えられたのか、学界ではいくつかの説がある。一つ目の説は、当該經典は早くも、第二十七代吐蕃贊普^{ツァンポ}ラ・トトリ・ニェンツェン^{ラ・トトリ・ニェンツェン}（lha tho tho ri gnyan btsan）の時代（3 世紀）にチベットに伝来したもので、天から降下した玄妙神秘的な神物の一つであるというものである。二つ目の説は、それがトンミ・サンボータ時期（7 世紀）にチベットに伝来したというものである。三つ目の説は、この經典の伝来年代は不明であるが、トンミ・サンボータによって翻訳されたというものである。チベット語史料の記述によると、『宝雲經』の蔵訳本には下記のような幾つかのバージョンがある。一つ目は、大訳経師トンミの時期の訳本である。二つ目は、今の敦煌文献の中から発見された初期『宝雲經』である（部分的なもの、または引用された内容である。これらの内容の性格とその訳文はまた考察する必要がある）。三つ目は、蔵文『甘珠爾』^{カンギル}の中の訳文である（例えば、北京版 P no.897, vol.35; mdo sna tshogs, dzu, 1b1–121a3; デルゲ版 D no.231, vol.64; mdo sde, wa, 1b1–112b7）。現在、『宝雲經』の蔵訳事情をめぐって、二種の学説がある。一つ目は、デルゲ版（D）と北京版（P）、そしてナルタン版（N）によれば、この經典は大訳経師^{リンチェンツォ}仁青措（rin chen mtsho）と^{チュニ・ツルティム}曲尼崔成（chos nyid tshul khirms）が共同で翻訳して確定したものである。ただしこの二人の訳経師に関する史実は未詳である。チベット大蔵經の中には、^{リンチェンツォ}仁青措と^{チュニ・ツルティム}曲尼崔成が翻訳した他の經典も存在していて⁽⁷⁾、現在の学者たちの研究によれば、^{チュニ・ツルティム}曲尼崔成は恐らく 8 世紀の大訳経師であるはずだが、^{リンチェンツォ}仁青措については未だ定説がない。二つ目は、Dolpo (Do)、sTog Palace (S)、Zhey Palace (Z)、Phug brag (F) 等の写本によると、この經典は Vairocanarakṣita と Dharmatāśīla によって翻訳されたのである（zhu chen gyi lo tsa ba ban de [bhe] ro tsa na rag shi ta (= [Vai]rocanarakṣita) dang | [Dar] ma ta las (! [Dhar]matāśīla) zhus te gtan la phab pa skad gsar [] [cha]d kyis kying (!) bcos [lagso] ||）。〈* 訳者注：人名等の固有名詞は元言語が確認しかねる場合があるため、基本的には中国語原稿における漢字表記を使用し、元言語が確認できるものはルビを振る。また、同形異字の混同を避けるため、漢字表記は基本的に正字を用いる。以下同〉

⁽⁶⁾ 『布頓佛教史』（中国蔵学出版社、1988）第 183 頁に参照。

⁽⁷⁾ [P. No.]0847, mdo sna tshogs, bu, 279a6–311a4 (vol.34, p.113) [D. No.]0180, mdo sde, ma 267a1–296a6 [P. No.]0843, mdo sna tshogs, phu, 180a3–250b3 (vol.34, p.74) [D. No.]0176, mdo sde, ma 175a1–239b7 の内容に参照。

3、漢訳本

漢訳本には、四つの異なる伝本がある。

1. 南梁時代、大訳経師曼陀羅仙（生没年未詳、503年に中国に入る）が翻訳した『宝雲經』7巻。
2. 南梁時代、曼陀羅仙と僧伽婆羅（557–589）が共同で翻訳した『宝雲經』7巻；曼陀羅仙と僧伽婆羅はともに扶南国（今のカンボジア）の出身である。
3. 西暦693年、唐代の則天武后の時、達摩流支が翻訳した『仏説宝雨經』10巻、『顯授不退転菩薩記』とも呼ばれる。訳者は南天竺の人で、婆羅門種。
4. 宋代訳経師法護（1019–1023）により翻訳された『除蓋障菩薩所問經』20巻。

達摩流支は『宝雨經』の訳文の中に、仏が東方の日月光天子を遣わして、女身を現じ、世間を支配するようになる、という内容を取り入れた。梵本および蔵訳本数種と比較すると、いずれもこの部分の対応文がない。したがって、これは達摩流支によって加筆された内容であろう。

達摩流支訳の『宝雨經』には、次のように説かれている。

爾時東方有一天子名日月光。乘五色雲來詣佛所。（中略）佛告天曰。（中略）天子。以是緣故。我涅槃後最後時分。第四五百年中法欲滅時。汝於此瞻部洲東北方摩訶支那國。位居阿鞞跋致。實是菩薩故現女身為自在主。經於多歲正法治化。養育衆生猶如赤子。令修十善能於我法廣大住持建立塔寺。又以衣服飲食臥具湯藥供養沙門（中略）。天子。然汝於五位之中當得二位。所謂阿鞞跋致及輪王位。（cf. T16.284b13–c14）

この経文の意味は、次の通りである。仏陀が日月光天子に対し、未来は不退転位の菩薩として女身に變じ世に現われ、摩訶支那国の自在主、即ち大中国の女帝となり、さらに正法を用いて国家を統治化度し、人民を教育して十善を勤修させ、仏法を宣揚するであろうと授記した。こうすれば、国が安泰になり、人民が安穩になる。衣食は豊富で満ち足りる。仏陀は最後に日月光天子に対して更に予言をして、その後には、必ず瞿曇多（兜率）天に参詣し、弥勒菩薩に奉仕するであろうと。乃至、弥勒が下生して成仏する時、弥勒仏はまた彼女に授記を与え、彼女も必ず正等正覺の仏になるであろうという。

この日月光天子が女身を現じて自在主となる時は、仏が涅槃した後の第四の500年、即ち仏無き世1500年後の時であり、場所はインドの東北方向にある摩訶支那国、即ち中国である。また名前を明示していなくても、誰でもわかるように、これは武則天が女皇になるべきことを指しているのである。当時、ある御用文人たちも『宝雨經』中のこの経文を、武則天が天命に应じて女皇となるべきであるという靈驗として大いに宣伝していた。例えば、宰相の李嶠がある文章の中に、武則天は「象藏秘籙、禎符郁乎『大雲』」。

登迹乗時、靈應開於『寶雨』。受先佛之付囑、荷遺黎之負担（後略）」と書いている。

しかし、『宝雨經』中のこの「經文」は、その同本異訳の漢訳本三つと現存する梵本、藏訳本の中には全く存在していない。明らかに、この部分の經文は訳者の達摩流支によって加えられたものである。武則天はこの經文を見て大いに喜び、達磨流支（法希）に「菩提流支（覺愛）」という法名を賜り礼遇を与えた。そして武則天は自ら「金輪聖神皇帝」（693 年）、「越古金輪聖神皇帝」（694 年）、「慈氏越古金輪聖神皇帝」（695 年）などの尊号を贈った。

三、『宝雲經』の藏訳伝本

『宝雲經』の藏訳本のタイトル⁽⁸⁾は、伝本によって相違がある。

1. དཀོན་མཆོག་གླིང་།
2. ཡོན་ཏན་རིན་པོ་ཆའི་འབྲུང་གནས་ཀྱི་ལེའུ།
3. ཡེ་ཤེས་སྒྲོན་མ།
4. སྒྲིབ་པ་ཐམས་ཅད་རྣམ་པར་ལེལ་བས་ཀྱན་དྲིས་པ།

藏訳の『宝雲經』は合計 7 卷⁽⁹⁾ある。この經典の藏訳では、101 の「ཇི་ལྟར་ན།」⁽¹⁰⁾（初期漢訳經典では「云何」と訳す）を以て質問する。例えば、

བཅོམ་ལྷན་འདས་ཇི་ལྟར་ན་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔའ་སེམས་དཔའ་ཆེན་པོ་སྐྱེན་པ་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་ཚུལ་ཁྲིམས་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་བཞོད་པ་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་བཙུན་འགྲོལ་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་བསམ་གཏན་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་ཤེས་རབ་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ལྷ་བྱ་པར་བྱིན་དུག་གི་སྒོར། ཡང་དབེར་ན། ཇི་ལྟར་ན་ཐབས་མཁས་པ་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་སྒྲོན་ལམ་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་སྟོབས་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་ཡེ་ཤེས་ཕུན་སུམ་ཚྏགས་པ་རྣམས་ལགས། ལྷ་བུའོ།

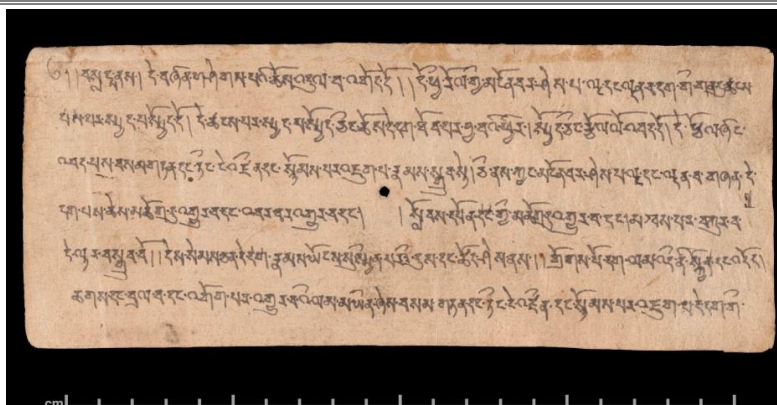
（云何具足檀那波羅蜜。云何具足尸羅波羅蜜。云何具足羼提波羅蜜。云何具足毗梨耶波羅蜜。云何具足禪那波羅蜜。云何具足般若波羅蜜。云何具足優和俱舍羅波羅蜜。云何具足波尼牢那波羅蜜。云何具足婆羅波羅蜜。云何具足闍那波羅蜜）

⁽⁸⁾ D (derge) 112b3-5; Do (Dolpo) 234a1-3; F (Phug brag) 298a4-7; Go ma 216a4-7; N (Narthang) 176a6-b2; P (Peking) 120b5-8; S (sTog Palace) 365b3-6; Z (Shey Palace) 435b6-436a2.

⁽⁹⁾ 梵本は巻を分けていないが、漢訳本は〔藏訳本と〕同じく巻を分けている。二つ目の〔漢〕訳經典（T no.659、梁・扶南三藏曼陀羅仙と僧伽婆羅訳）は更に品を分ける。

⁽¹⁰⁾ 異なる藏文写本は、質問の部分において、個別の問いが抜けていることがある。例えば、Phug brag 写本には、第 16 問の ཇི་ལྟར་ན་ཁྲིམ་པ་ལྷ་བྱ་རྣམས་ལགས། が欠いている。とはいえ、後文では、F 213a5-214b7 の部分においてその回答があり、この問題が存在すると見てよいであろう。同様に、Gondhla 写本の前の部分でも、第 33 問の ཇི་ལྟར་ན་ཆོས་ཀྱི་རྒྱུ་འབྲས་པ་རྣམས་ལགས། が欠いているが、後の部分においては回答されている。それは Go na 174a10-b5 にある。

また、大英博物館蔵敦煌蔵文文献 IOL Tib J 233 1 の場合。

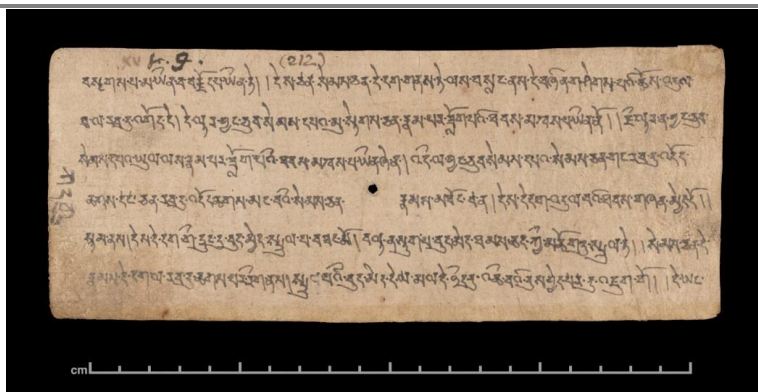


大英博物館所藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 233 1

བསྐྱེད་ནས་དེ་བཞིན་གཤེགས་པའི་ཆོས་འདུལ་པ་ལ་འགྲོད་དོ། །དེ་ཕྱི་རོལ་གྱི་མངོན་པར་ཤེས་པ་ཟླ་དང་ཟླན་པ་དག་གི་གན་དུ་ཆངས་པར་སྤྱད་པ་སྤྱོད་དོ། །དེ་ཆངས་པར་སྤྱད་པ་སྤྱོད་ཅིང་ཆོས་དེ་སྒོལ་པར་བྱ་བའི་ཕྱིར་སྤྱོད་ཅིང་ཆོས་སྟོ། །འབད་དོ། །དེ་ཆོས་ཁྲིང་འབད་པས་བསམ་གཏན་དང་། ཉིང་དེ་འཛིན་དང་། ལྷོམས་པར་འཇུག་པ་ནམས་སྒྱུབ་ལྷེ་ཅི་ནས་ཀྱང་མངོན་པར་ཤེས་པ་ཟླ་དང་ཟླན་པ་གཞན་དེ་དག་པས་ཆེས་མཆོག་ཏུ་འབྱུང་བ་དང་། ཆེས་འབར་བར་འབྱུང་བ་དང་། སློབ་དཔོན་གྱི་མཆོག་ཏུ་འབྱུང་བ་དང་། མཁས་པར་བཀུར་བར་འབྱུང་བ་དེ་ལྟར་སྤྱུབ་པོ། །དེས་སེམས་ཅན་དེ་ནམས་ཡོངས་སུ་ལྷིན་པའི་དུས་དང་། ཆོད་ཤེས་ནས་སྒོགས་པོ་དག་ལས་འདི་ནི་སྒྲོལ་བ་དང་། འདྲོད་ཆགས་དང་བྲལ་བ་དང་། འགོག་པར་འབྱུང་པའི་ལམ་མ་ཡིན་ཙོ་ཞེས། བསམ་གཏན་དང་། ཉིང་དེ་འཛིན་དང་། ལྷོམས་པར་འཇུག་པ་དེ་དག་

中国藏学研究中心出版『中華大藏經』（蔵研対勘版）『^{カンギョル}甘珠爾』第64部 69-70 頁より

大英博物館蔵敦煌蔵文文献 IOL Tib J 233 2 の場合。



大英博物館藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 233 2

མ་ལགས་པ་བརྗོད་པ་ཡིན་ཏེ། དེས་སེམས་ཅན་དེ་དག་གནས་དེ་ལས་བསྐྱང་ནས་དེ་བཞིན་གཤེགས་པའི་ཚས་འདུལ་པ་ལ་རབ་ཏུ་འགོད་དེ། དེ་ལྟར་ན་བྱང་ཆུབ་སེམས་
དང་པ་ཕུ་ལྷགས་ཅན་རྣམ་པར་སྒྲོག་པའི་ཐབས་མཁས་པ་ཡིན་ནོ། རི་ཁྱར་ན་བྱང་ཆུབ་སེམས་དང་པ་ཡུལ་ལས་རྣམ་པར་སྒྲོག་པའི་ཐབས་མཁས་པ་ཡིན་ཞེ་ན། འདི་ལ་བྱང་
ཆུབ་སེམས་དང་པའ་སེམས་ཅན་གང་རབ་ཏུ་འདོད་ཆགས་ཅན་རབ་ཏུ་འདོད་ཆགས་མང་བའི་སེམས་ཅན་རྣམས་མཐོང་ན། དེས་དེ་དག་གདུལ་བའི་ཐབས་གཞན་མེད་དོ་
ལྟམ་ནས་དེས་དེ་དག་གི་བྱང་ཏུ་བྱང་མེད་སྒྲུལ་པ་བཟང་མོ་བཞུ་ན་སྒྲུག་པ་བྱང་མེད་ཐམས་ཅད་ཀྱི་མཚན་གདག་སྒྲུལ་ཏེ། སེམས་ཅན་དེ་རྣམས་དེ་དག་ལ་རབ་ཏུ་ཆགས་པར་
རིག་ནས་སྒྲུལ་པའི་བྱང་མེད་མས་དེ་ཉིད་དུ་འཛིན་པའི་དུས་བྱེད་དུ་འཇུག་གོ།

中国藏学研究中心出版『中華大藏經』（藏研対勘版）『^{カンギョル}甘珠爾』第64部70頁より

上記の比較から、一部の語彙の表現の異なる時期における変化および蔵文の書写様式の変遷がわかる。

四、『宝雲經』のチベット仏教における影響

『宝雲經』は、チベット仏教に与えた影響が深遠広大であり、チベット仏教の思想の形成に重要な役割を果たしている。『学処要集』、『入菩薩行論』、『入中論』は、すべてチベット仏教の各宗派に尊重崇拝されている重要な経論である。インドとチベットの大師の著作はすべて、この經典の引用を正統なものとして見なしている。蓮華戒(Kamalaśīla、カマラシーラ)大師は、チベットの「サムイェの宗論」(「吐蕃僧諍」ともいう)の後に著した『修行次第』に十数カ所『宝雲經』の内容を引用している。また、現代の学者たちが敦煌の古文獻とタボ寺の残存写本から発見した摩訶衍大師著『大瑜伽修行之義』(rNal 'byor chen por bsgom pa'i don nam mtshan gzhan mdo sde brgyad bcu'i khungs)⁽¹¹⁾の中の16カ所は、『宝雲經』の内容を引用したものである⁽¹²⁾。チベットの仏教学大師ツォンカパもその著作の中において、直接的に『宝雲經』を引用したり、或いは『修行次第』に引用された『宝雲經』の内容を孫引きしたりしている。このような点から見ると、チベット後期の仏学大師が非常に『宝雲經』を重要視していたことがわかるのである。

『宝雲經』は、仏教經典の蔵訳にも重要な影響を与えている。特に、チベットの仏教經典翻譯規範の改正・制定の際に、重要な役割を果たした。史料の記述によれば、チベットの歴史において、かつて、8世紀の半ばから9世紀半ばにかけて、それぞれ二回をわたって大規模な經典翻譯規範の改正・制定が行われた。8世紀半ばの贊普赤松德贊^{ティソン/デツェン}(Khri srong lde btsan, 742–797CE)と9世紀初頭の贊普赤德松贊^{ティデ・ソンツェン}(Khri sde srong btsan, 776–815CE)時期、インドの仏教大師とチベット現地の大訳経師が、そこまでの蔵訳仏典に対し修正及び校訂を行った。この時期に、白若雜納^{ヴァイローチャナ}(Vairocana)等の九大訳経師が現れ、ヴァイローチャナは翻譯語を規範する辞書を編集した。更に、贊普赤祖德贊^{ティツク・デツェン}(khri gtsug lde btsan 806–841CE、通称「赤熱巴巾(khri rol pa can)」)の時期に、チベットとインドの大学者と大訳経師を集めて、訳名を統一し、訳例を規定し、また、函・卷等の基準を確定して、梵語とチベット語の特徴を考え合わせて、一部の經典用語に対し公式的な規範の改正・制定を行った。当時、チベット訳経師である噶瓦白澤^{カワ・ベルツェク}(sKa ba dpal

(11) 『丹珠爾』には収録されていない。

(12) Otokawa 1999 は、Tabo の残本より 6 つの引用文しか見つかっていないが、実際に、他の写本残本によれば、合計 16 個の引用文があり、これらは現在整理している途中である。【Otokawa, Bun'ei. "New fragments of the rNal 'byor chen por bsgom pa'i don from Tabo." *Tabo studies II: manuscripts, texts, inscriptions, and the arts*. Eds. C. A. Scherrer-Schaub, Ernst Steinkellner, and Paul M. Harrison. Serie orientale Roma; vol. 87. Roma: Istituto italiano per l'Africa e l'Oriente, 1999. 99–161.】

brtsegs)、^{チョクロ・ルイ・ギエンツェン}角若魯益堅贊 (cog ro klu'i rgyal mtshan)、^{ジャン・イエシエーデ}祥益西德 (zhang ye shes sde) ⁽¹³⁾等とインドの^{パンディタ・ジナミトラ}班智達茲納米札 (paṇḍita Jinamitra)、^{ダーナシーラ}達納吸拉 (Dānaśīla) は旧訳に対して修訂を行い、仏教経論における仏教用語の規範改正をした後、『語合二章』及び基準となる蔵梵対照辞典『翻訳名義集』を編纂し、翻訳のルールに対して明確な規則を定めた。『語合二章』に記されているように、当時は、梵語より蔵訳された『宝雲經』と漢訳本より蔵訳された『楞伽經』を以って、この第二次規範改正の標準見本と訳例としたのである。『語合二章』と『翻訳名義集』は、チベットの初期仏教經典の専門用語対照辞典とも見られ、その中の多くの専門用語語彙は『宝雲經』に由来しているのである。

五、結び

大乘仏教の初期段階に現れた經典として、『宝雲經』は、梵・蔵・漢という三大言語体系の仏教の中において、いずれもその地位が独特かつ重要である。特にチベット仏教にとって、『宝雲經』は、その教義・教理の成立と完備に非常に重要な役割を担った。同時にチベット語の翻訳規範改正前後の『宝雲經』訳文を比較することで、多くのチベット語名詞術語の変化過程が発見され、『宝雲經』の翻訳がチベット語の經典教義用語の内容を極めて大きく豊かにしたことがわかる。ポタラ宮梵本の発見は、学界に対して、この伝本に対する研究の幕を開いた。研究の進捗と深化に伴って、今後、『宝雲經』が国際仏教研究に異彩を添えることを期待する。

翻 訳 者 あとがき

本論文は、^{ダムドゥル}鄭堆氏が2017年12月2日に龍谷大学にて開催された国際シンポジウム「チベットの宗教文化と梵文写本」での発表論文に基づき補正したものである。論文の翻訳校正につき、能仁正顕氏・若原雄昭氏の多大なご協力、ネイティブチェックの面では唐澤太輔氏のご助言をいただいた。この場を借りて、ご教示くださった皆様に対し感謝を申し上げる。

^{カラ・ベルツェク}噶瓦白澤、^{チョクロ・ルイ・ギエンツェン}角若魯益堅贊は^{ティン・ロバチエン}赤熱巴巾（^{ティツク・デツェン}贊普赤祖德贊）時期の訳経師であり、^{ジャン・イエシエーデ}祥益西德は^{メー・アグツォム}美阿聡（Mes ag tshom、即ち金城公主を娶った第三十六代吐蕃贊普尺帶珠丹）^{ティデ・ツグツェン}時期の訳経師である。

中国語原稿

《寶雲經》初探

鄭 堆

摘要

《寶雲經》是印度早期佛教的重要經典，現有梵本和藏、漢譯本，其梵本失傳多年後在布達拉宮被發現。布達拉宮梵文本的發現開啟了學術界對這一版本的研究。本文初步考察了《寶雲經》的這三種文本及其在佛教中的地位 and 影響，認為《寶雲經》在三大語系佛教中的地位都是獨特而重要的，尤其對藏傳佛教的教義教理的形成和完善起到非常重要作用，其藏文本的翻譯極大地豐富了藏文經教名相的內容。

關鍵詞：《寶雲經》 梵文寫本 藏譯本 漢譯本

引言

《寶雲經》是印度早期佛教的重要經典。在藏傳佛教中，《寶雲經》受到了極大重視。從《語合二章》⁽¹⁾、《翻譯名義集》等的記載中可見，《寶雲經》不僅對藏傳佛教的教義產生了非常重要的作用，同時對藏文佛教經典翻譯也起到了積極影響。《寶雲經》的梵文本 *Ratnameghasūtra* 因長期失傳，學界曾經認為此經已不存在。所幸這部經典的梵文本在拉薩發現，引起了學界和宗教界的極大關注。中國藏學研究中心目前正在組織專家對影印收藏的一部梵文《寶雲經》進行研究。本文簡短地“預告”這部經典研究進展情況，並就相關藏文資料進行討論。

一、《寶雲經》簡介

《寶雲經》是印度早期大乘佛經之一，該經對於佛教思想的形成產生了重要影響。寂天大師（Śāntideva, 685—763CE）所著《學處要集》（*Śikṣāsamuccaya*）30 多處引用了《寶雲經》。蓮花戒大師（Kamalaśīla, 740—795CE）所著《修行次第》（*Bhāvanākrama*）中也引用了十幾次。一些學者認為這部經典是《學處要集》、《入菩薩行論》（*Bodhisattvacaryāvatāra*）、《入中論》（*Madhyamakāvatāra*）等很多重要典籍引用的重要根據。⁽²⁾

⁽¹⁾ 參 Derge 目錄 p.669, no.4347。也譯《語合二卷》。

⁽²⁾ 參：pp.156—157, in—Pagel, Ulrich. “The Dhāraṇīs of Mahāvyūtpatti #748: Origin and

《寶雲經》主要講解了登地菩薩的修行，是佛陀對除蓋障菩薩（ཐུང་རྩལ་ལེན་པ་དཔལ་གྱི་པ་ཐམས་ཅད་རྒྱལ་པར་ལེན་པ་）所提出的百問進行解答而形成的一部經典。其內容細說菩薩所具備之德行。有除蓋障菩薩來到娑婆世界，請教釋迦牟尼佛菩薩德行之事。這些問題共有百餘問，幾乎涉及菩薩道修行的全部內容，從十波羅蜜（pāramitā）、十二苦行（dhutaṅga）、空無相無願之三解脫門（trīṇi vimokṣamukhāni）、了達世俗諦與勝義諦、善解緣起，到最後如何速證阿耨多羅三藐三菩提等等。

二、三大語系中的《寶雲經》

1、梵文本

《寶雲經》梵本名為 *Ratnameghasūtra*，因其一度消失不見而被學界認為早已經不復存在。後來在西藏布達拉宮被發現，引起了極大的轟動。目前有學者正在研究校對該經典，會有專文出版，本文只稍宣佈及簡述。根據跋文內容可以看出，此梵本《寶雲經》書寫於印度帕拉王朝哥帕拉國王執政 13 年。這位國王何時在位，尚有不同看法。有學者認為它很可能與布達拉宮藏《維摩詰經》為同一時期的經典。《維摩詰經》書寫完成於哥帕拉執政 12 年時，其原作成書於在公元 1-2 世紀之間。《寶雲經》形成的確切年代尚需考證。

目前西藏所存梵文《寶雲經》是 20 世紀 80 年代，由中國藏學研究中心委託相關人士在西藏進行梵文經典資料收集時發現的。在當時做的《羅昭目錄》⁽³⁾中有這方面的記載，而此前西藏梵文貝葉經的兩部目錄即《羅睺羅目錄》⁽⁴⁾及《王森目錄》⁽⁵⁾中都沒有發現這部經典。目前西藏所存梵文貝葉經原件並不對外公開，只能通過中國藏學研究中心所藏影印本（CTRC 影印件）來進行調查研究。通過貝葉上的頁碼標記可知，該梵文本應有 73 葉。而中國藏學研究中心所藏影印件，據其初步調查結果來看應是缺失了 18 葉。但就在最近，臺灣學者、慕尼黑大學研究員自運法師在對中國藏學研究中心所藏影印本文獻資料進行調查時，從其他文獻中發現了應為上述梵文本《寶雲經》一部分的 3 葉。至此，學界可掌握的梵文本《寶雲經》內容仍有 15 葉缺失。

2、藏文譯本

formation.” *Buddhist Studies Review* 24.2 (2007): 151—91。

(3) 《羅昭目錄》由羅昭先生記錄了羅布林卡宮所藏寫本信息的《羅布林卡所藏貝葉經目錄》、與記錄了布達拉宮藏本情況的《布達拉宮所藏貝葉經目錄》所構成，尚未出版。詳細記錄有文獻題目、葉數、裝飾畫的有無、尺寸、字體、後記內容等信息。

(4) Rāhula Sāṅkrtyāyana, “Sanskrit palm-leaf Mss. in Tibet”, JBORS 21, 1935, pt.1, pp. 21-43, “Second Sarch of Sanskrit Palm- leaf Mss. in Tibet”, JBORS 23, 1937, pt.1, pp.1-53, “Search for Sanskrit Mss. in Tibet”, JBORS 24, 1938, pt.4, pp.137-163.

(5) Haiyan-Hu-von Hinuber, Freiburg Some Remarks on the Sanskrit Manuscript of the Mūlasarvāstivāda-Prātimokṣasūtra found in Tibet. JAINA- ITIH ĀSA-RATNA Festschrift für gustav Roth zum 90. Geburtstag. INDICA ET TIBETICA VERLAG MARBURG 2006.

根據相關史料記載，西藏的佛教經典翻譯始於第三十三代吐蕃贊普（吐蕃王）松贊干布時期（617?－650），當時出現了大譯師吞彌桑布扎等佛經翻譯者⁽⁶⁾。《寶雲經》何時傳入西藏學界有不同的說法。一種認為該經典早在第二十七代吐蕃贊普拉妥妥日年贊（ལྷ་མོ་ལྷ་མོ་ལྷ་མོ་）時期（3世紀）傳入西藏，為天降玄秘神物之一。第二種認為是吞彌桑布扎（7世紀）時期傳入西藏。第三種認為此經典傳入年代不詳，但由吞彌桑布扎翻譯完成。根據藏文史料記載，《寶雲經》藏譯本或許有以下幾個版本。一是大譯師吞彌時期的譯文，二是目前敦煌的文獻中發現的早期《寶雲經》（部分或引文內容，這些內容的性質及譯文待考），三是藏文《甘珠爾》中的譯文（如，北京版 P no.897, vol.35; mdo sna tshogs, dzu, 1b1－121a3; 德格版 D no.231, vol.64; mdo sde, wa, 1b1－112b7）。目前藏文《寶雲經》的翻譯有兩種說法：一根據德格版(D)北京版(P)及納塘版(N)，此經是由大譯師仁青措（འཇམ་མཉེན་ལྷ་མོ་འཇམ་མཉེན་）和曲尼崔成（ཆེན་ཉིན་ལྷ་མོ་འཇམ་མཉེན་）共同翻譯並厘定，這兩位譯師的歷史不詳。大藏經中有仁青措和曲尼崔成的翻譯的其他經典⁽⁷⁾。根據現代學者研究，曲尼崔成應是公元8世紀的大譯師，但對仁青措尚無定論。二是根據 Dolpo (Do)、sTog Palace (S)、Zhey Palace (Z)、Phug brag (F)等抄本，此經是由 Vairocanarakṣita 及 Dharmatāśīla 翻譯 (zhu chen gyi lo tsa ba ban de [bhe] ro tsa na rag shi ta (= [Vai]rocanarakṣita) dang | [Dar] ma ta las (! [Dhar]matāśīla) zhus te gtan la phab pa skad gsar [] [cha]d kyis kying (!) bcos [lagso] ||)。

3、漢文譯本

漢文譯本有四個不同的版本：

- 1.南梁時期大譯師曼陀羅仙（生卒不詳，503年來華）翻譯的《寶雲經》7卷。
- 2.南梁時期曼陀羅仙和僧伽婆羅（557—589年）共同翻譯的《寶雲經》7卷；曼陀羅仙和僧伽婆羅均為扶南國（今柬埔寨）人。
- 3.公元693年，唐代武則天時期達磨流支翻譯的《佛說寶雨經》10卷，又名《顯授不退轉菩薩記》，譯者是南天竺人，婆羅門種姓。
- 4.宋代译师法护（1019—1023年）所翻译的《除盖障菩萨所问经》20卷。

達磨流支在《寶雨經》的譯文中加進了一段佛遣東方日月光天子現女身統治世間的內容。經比較梵文及幾個藏譯本，都無這段內容，應該是達磨流支所增加的內容。

達磨流支譯文《寶雨經》載：“爾時東方有一天子，名曰月光，乘五色雲，來詣佛所……佛告天曰：‘……天子，以是緣故，我涅槃後，最後時分，第四五百年中，法欲滅時，汝

(6) 參見《布頓佛教史》，中國藏學出版社，1988，第183頁。

(7) 参見[P. No.]0847, mdo sna tshogs, bu, 279a6—311a4 (vol.34, p.113) [D. No.]0180, mdo sde, ma 267a1—296a6 [P. No.]0843, mdo sna tshogs, phu, 180a3—250b3 (vol.34, p.74) [D. No.]0176, mdo sde, ma 175a1—239b7 内容。

於此瞻部洲東北方摩訶支那國，位居阿鞞跋致，實是菩薩，故現女身，為自在主，經於多歲，正法治化，養育眾生，猶如赤子，令修十善，能于我法廣大住持，建立塔寺；又以衣服、飲食、臥具、湯藥，供養沙門……。天子，然汝於五位之中當得二位，所謂阿鞞跋致及輪王位。”（cf. T 16.284b13—c14）

這段經文是說，佛陀授記日月光天子，將以不退轉菩薩的身份，變現女身，為摩訶支那國自在主，即大中國的女皇帝，並以正法治化國家，教育人民，勤修十善，弘揚佛法。這樣，就會國泰民安，豐衣足食。最後還授記日月光天子，後當往詣睹史多（兜率）天宮，奉侍彌勒菩薩，乃至彌勒下生成佛時，複予她授記，亦當成正等正覺的佛陀。

這一日月光天子現女身為自在主的時間是佛涅槃後的第四個 500 年，即佛逝世 1500 年後，地點是印度東北方的摩訶支那國，即中國。雖然沒有點出姓名，誰都知道是指武則天應為女皇。一些御用文人也把《寶雨經》中的這段經文作為武則天上膺天命應為女皇的靈驗大加宣揚，如宰相李嶠在一篇文章中說：武則天“象藏秘錄，禎符鬱乎《大雲》；登跡乘時，靈應開於《寶雨》。受先佛之付囑，荷遺黎之負擔……”。

但是《寶雨經》中的這段“經文”，在其同本異譯的三個譯本，以及現存梵文本、藏譯本中全無蹤跡，顯然它是譯者增加的。武則天看到這段經文後，喜出望外，為達摩流支（法希）賜名為菩提流志（覺愛），並禮遇有加。武則天自己也上尊號為“金輪聖神皇帝”（693 年）、“越古金輪聖神皇帝”（694 年）、“慈氏越古金輪聖神皇帝”（695）等。

三、《寶雲經》的藏文版本

《寶雲經》藏文經名⁽⁸⁾有所不同。

1. དགོན་མཚན་གྱི།
2. ཡན་ཏན་རིན་པོ་ཆེའི་འབྲུང་གནས་ཀྱི་ལུ།
3. ཡེ་ཤེས་སྤྱོད་ཀྱི།
4. སྤྱིབ་པ་ཐམས་ཅད་རྣམ་པར་སེལ་བས་ཀྱན་ངོས་པ།

藏文《寶雲經》一共有 7 卷⁽⁹⁾。藏文經典中用 101 個 ཇི་ལྟར་ན་⁽¹⁰⁾（早期漢文經典翻譯為云何）來提問。比如，བཅོམ་ཞུན་འདས་ཇི་ལྟར་ན་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔའ་སེམས་དཔའ་ཆེན་པོ་སྤྱོད་པ་ལུན་སྤྱུམ་ཚལས་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྟར་ན་ཚུལ་ཁྲིམས་ལུན་

⁽⁸⁾ D (derge) 112b3-5; Do (Dolpo) 234a1-3; F (Phug brag) 298a4-7; Go ma 216a4-7; N (Narthang) 176a6-b2; P (Peking) 120b5-8; S (sTog Palace) 365b3-6; Z (Shey Palace) 435b6-436a2.

⁽⁹⁾ 梵文並沒分卷帙。中文譯本也分卷，第二個譯經（T no.659，梁扶南三藏曼陀羅仙共僧伽婆羅譯）更分品。

⁽¹⁰⁾ 不同的藏文寫本在提問部分漏掉個別問題，如 Phug brag 抄本缺了第 16 個問題：ཇི་ལྟར་ན་ཐུག་པ་རྣམས་ལགས། 但後面內文，在 F 213a5—214b7 中做了回答，也算有這問題。同樣 Gondhla 抄本前面也缺了第 33 個問題：ཇི་ལྟར་ན་ཆོས་ཀྱི་རྒྱུ་ལྟར་བ་རྣམས་ལགས། 但在後面做了解答，在 Go na 174a10—b5。

ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་བ་བོད་པ་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་བ་ཆོན་འབྲུག་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་བ་མམ་གཏུན་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་
 རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་ཤེས་རབ་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ལྷ་བྱ་པར་བྱིན་བྱ་གཉིསྟོར་ ཡང་དབེར་ན། ཇི་ལྷ་རྩ་ཐབས་མཁས་པ་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་
 མོན་ལམ་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་སྟོབས་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ཇི་ལྷ་རྩ་ཡེ་ཤེས་ལུན་ལྷ་མོ་ཆོག་པ་པ་རྣམས་ལགས། ལྷ་བྲལ། (云何具足檀那
 波羅蜜。云何具足尸羅波羅蜜。云何具足羼提波羅蜜。云何具足毗梨耶波羅蜜。云何具足
 禪那波羅蜜。云何具足般若波羅蜜。云何具足優和俱舍羅波羅蜜。云何具足波尼牢那波羅
 蜜。云何具足婆羅波羅蜜。云何具足闍那波羅蜜)

敦煌時期《寶雲經》藏文版本有不同的譯本，但與現在收錄於大藏經《甘珠爾》的《寶雲經》有諸多不同點。以大英博物館藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 為例，該文獻 162 l 如下：

(圖像見日譯版)	
大英博物館所藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 162 1	

對照大英博物館藏敦煌藏文文獻和中國藏學研究中心出版的《中華大藏經》（藏研對勘版）《甘珠爾》（mdo sde, wa）第 64 部之《寶雲經》可以發現早期譯本與藏文厘定之後的《寶雲經》譯本之間的區別。《中華大藏經》（藏研對勘版）《甘珠爾》第 64 部第 15 頁載：

མཆས་ཉེ་བར་གཞུགས་ཏེ་མཆས་ལ་འདྲི་བ་ལྟར་བཞུགས་པའི་ཕྱང་རྒྱུ་ཏུ་མཆས་པ་བྱེད་པ་འདི་ནི་ཆེན་པོ་མཆས་ཏྟེ། ཕྱང་རྒྱུ་མཆས་དཔལ་དེ་དག་གིས་གསོལ་བ་པཅོམ་ཞུན་འདས་པོ་མཆས་ཏྟེ། བདེ་བར་གཤེགས་པ་པོ་མཆས་ཏྟེ། དེ་ནས་སྤྱི་བ་པ་ཐམས་ཅད་རྒྱལ་བར་སེལ་བ་ལ་སྟེགས་པ་ཕྱང་རྒྱུ་མཆས་དཔལ་དེ་དག་ཐམས་ཅད་ཀྱིས་ལེགས་སོ། བཅོམ་ཞུན་འདས་ཞེས་གསོལ་ནས། བཅོམ་ཞུན་འདས་དེ་ལས་འདི་རྩ་བུ་འབྱུང་པའི་རྒྱུ་བྱུང་བ་དེ་མཉན་ནས་བཅོམ་ཞུན་འདས་དེའི་ཞབས་ལ་མགོ་བོས་བྱག་འཛམ་ ཉེ་རང་རང་གི་གནས་ནས་དོང་ངོ། དོང་ནས་བཅོམ་ཞུན་འདས་ལྷུ་བྱུ་བྱུ་བ་ལ་མཆོང་པའི་ཕྱིར་ལ་ལས་ནི་ ༄། རིན་པོ་ཆེའི་ཤིང་མེ་ཏྟག་དང་བཅས་པ་འབས་བྱ་དང་བཅས་པ་ རྒྱ་དང་ཞེང་དུ་ཞུན་པ་རྒྱམས་མངོན་པར་སྤྲུལ། ༄། ལ་ལས་ནི་བེད་ཆེའི་ཤིང་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་ཤེལ་གྱི་ཤིང་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་དང་པག་བསམ་གྱི་ཤིང་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་གཤེར་གྱི་ ཤིང་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་མེ་ཏྟག་གི་ཤིང་རྒྱམས།ལ་ལས་ནི་འབྲས་བུའི་ཤིང་རྒྱམས།ལ་ལས་ནི་གོས་གྱི་སྤྱིར་རྒྱམས།ལ་ལས་ནི་རྒྱུན་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་སྤོང་གྱི་སྤྱིར་རྒྱམས། ལ་ ལས་ནི་ཤིང་བའི་སྤྱིར་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་ཕྱེ་མའི་སྤྱིར་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་གདུགས་གྱི་སྤྱིར་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་རྒྱལ་མཆོང་གྱི་སྤྱིར་རྒྱམས། ལ་ལས་ནི་སེལ་སྟན་གྱི་སྤྱིར་རྒྱམས་མངོན་ པར་སྤྲུལ་ཏེ། མངོན་པར་སྤྲུལ་ནས་གཅིག་དུ་

上述內容中的不同譯法對比：

大英博物館藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 162 1	《中華大藏經》(藏研對勘版) བཀའ་འགྲུ་ མདོ་སྟེན་ མ་ ༡༤ འཕགས་པ་དཀོན་མཆོག་གི་ཅེས་བྱ་བ་ཐེག་པ་ཆེན་པོའི་མདོ། དེབ64
ཐ་ན་མེད་པ	ཐ་ན་མེད་པ
གཡུང་རྒྱུ་རྒྱུགས་པ	ཡང་དག་པར་རྒྱགས་པ
བསྐྱེད་པ	སོགས
བཅོམ་ཐུན་འདས་ལ་དེ་དག་གིས་རྒྱལ་བཞིན་ཏུ་གདམས་པ་མཉན་	བཅོམ་ཐུན་འདས་དེ་ལས་འདི་རྩ་བ་འཐུན་པའི་རྩེས་སུ་བཞུན་པ་དེ་མཉན་
ཤག་ཀྱ་ཐུབ་པ	ཤུ་ཐུབ་པ
མེན་ཏྲིག	མེན་ཏྲིག
སྤྱད	ཁྱེན
ཤ་དག	རྩམས

又如，大英博物館藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 233 1：

(圖像見日譯版)
大英博物館所藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 233 1
བསྐྱེད་ནས་དེ་བཞིན་གཤེགས་པའི་ཚས་འདུལ་བ་ལ་འགོད་དོ། དེ་ཕྱི་རོལ་གྱི་མངོན་པར་ཤེས་པ་ལྟ་བུ་ཆངས་པར་སྦྱང་བ་སྦྱང་དོ། དེ་ཆངས་པར་སྦྱང་བ་སྦྱང་བའི་ཚས་དེ་ཐོབ་པར་བྱ་བའི་ཕྱིར་སྦྱང་བའི་ཚས་ལོ། འབད་དོ། དེ་ཚུལ་ཞིང་འབད་པས་བསམ་གཏན་དང་། ཉིང་དེ་འཛིན་དང་། ལྷོ་མས་པར་འཇུག་པ་རྣམས་སྦྱབ་སྒྲུབ་ཅི་ནས་ཀྱང་མངོན་པར་ཤེས་པ་ལྟ་བུ་ཆངས་པར་གཞན་དེ་དག་པས་ཆེས་མཆོག་ཏུ་འགྱུར་བ་དང་། ཆེས་འབར་བར་འགྱུར་བ་དང་། སློབ་དཔོན་གྱི་མཆོག་ཏུ་འགྱུར་བ་དང་། མཁས་པར་བཀུར་བར་འགྱུར་བ་དེ་ལྟར་སྦྱབ་པོ། དེས་སེམས་ཅན་དེ་རྣམས་ཡོངས་སུ་སྒྲིན་པའི་དུས་དང་། ཆོད་ཤེས་ནས་གྲགས་པོ་དག་ལམ་འདི་ནི་སྦྱོར་བ་དང་། འདོད་ཆགས་དང་བྲལ་བ་དང་། འགོག་པར་འགྱུར་བའི་ལམ་མ་ཡིན་ཞེས། བསམ་གཏན་དང་། ཉིང་དེ་འཛིན་དང་། ལྷོ་མས་པར་འཇུག་པ་དེ་དག་།
摘自：中國藏學研究中心出版的《中華大藏經》（藏研對勘版）《甘珠爾》第 64 部第 69-70 頁

大英博物館藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 233 2：

(圖像見日譯版)
大英博物館藏敦煌藏文文獻 IOL Tib J 233 2
མ་ལེགས་པ་བརྗོད་པ་ཡིན་ཏེ། དེས་སེམས་ཅན་དེ་དག་གནས་དེ་ལས་བསྐྱེད་ནས་དེ་བཞིན་གཤེགས་པའི་ཚས་འདུལ་བ་ལ་རབ་ཏུ་འགོད་དོ། དེ་ལྟར་ན་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔལ་འཕྱེགས་ཅན་རྣམས་པར་སྒྲོག་པའི་ཐབས་མཁས་པ་ཡིན་ནོ། ཇི་ལྟར་ན་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔལ་འཕྱེགས་རྣམས་པར་སྒྲོག་པའི་ཐབས་མཁས་པ་ཡིན་ཞེ་ན། འདི་ལ་བྱང་ཆུབ་སེམས་དཔལ་འཕྱེགས་ཅན་གང་རབ་ཏུ་འདོད་ཆགས་ཅན་རབ་ཏུ་འདོད་ཆགས་མང་བའི་སེམས་ཅན་རྣམས་མཐོང་ན། དེས་དེ་དག་གཏུལ་བའི་ཐབས་གཞན་མེད་དོ། ལྷོ་མ་ནས་དེས་དེ་དག་གི་བྱང་དུ་བྱང་མེད་སྦྱལ་བ་བཟང་མོ་བཟུ་ན་སྦྱག་པ་བྱང་མེད་ཐམས་ཅད་ཀྱི་མཆོག་དག་སྦྱལ་ཏེ། སེམས་ཅན་དེ་རྣམས་དེ་དག་ལ་རབ་ཏུ་ཆགས་པར་རིག་ནས་སྦྱལ་བའི་བྱང་མེད་མལ་དེ་ཉིད་དུ་འཆིབས་པའི་དུས་བྱེད་དུ་འཇུག་གོ།
摘自：中國藏學研究中心出版的《中華大藏經》（藏研對勘版）《甘珠爾》第 64 部第 70 頁

通過對勘比較可以看出有些名相在不同時期的變化以及藏文書寫方式的發展變化。

四、《寶雲經》對藏傳佛教的影響

《寶雲經》在藏傳佛教中影響深廣，對藏傳佛教思想的形成發揮了重要作用。《學處要集》、《入菩薩行論》、《入中論》都是藏傳佛教各個教派所尊崇的重要經典。印藏大師所著典籍均以引用這些經典為正宗。蓮花戒大師在西藏桑耶大辯論（也稱吐蕃僧諍）之後所著的《修行次第》（*Bhāvanākrama*）有十幾處引用了《寶雲經》內容。另外現代學者在敦煌古文獻、達布寺（དཱ་བུ་དགོན།）散落的寫本中所發現的摩訶衍大師（ཐུག་ཡེ་ཤེས་དབྱངས་མཁ་ཏུ་ཤང་མ་ཏུ་ཡན་）著的《大瑜伽修行之義》（ནལ་འབྱོར་ཆེན་པོར་བསྒྲུབ་པའི་དོན་རྣམས་མཚན་གཞན་མདོ་ལྟར་བཞུད་བཞུད་ཁྱེད་ལྟངས།）⁽¹¹⁾中的 16 處引用了

(11) 未收錄到《丹珠爾》中。

《寶雲經》的內容⁽¹²⁾。西藏佛學大師宗喀巴也在其著作中直接引用《寶雲經》或轉引《修行次第》中所引用的《寶雲經》的內容，由此可以看出西藏後期的佛學大師也非常重視《寶雲經》。

《寶雲經》對藏文佛教經典的翻譯也產生了重要影響，尤其在西藏佛經翻譯厘定過程中發揮了重要影響。據史料記載，西藏歷史上曾在 8 世紀中葉至 9 世紀中葉分別進行了兩次大規模的厘定規範。8 世紀中葉贊普赤松德贊（*ཞི་ཤོང་ལྷེ་བཙན།* 742—797 CE）至 9 世紀初葉贊普赤德松贊（*ཞི་ཤེ་ཤོང་བཙན།* 776—815 CE）時期，印度佛教大師和本地的翻譯大師對先前的譯本進行了修訂。此時出現了白若雜納（*འབྲེ་ཙན།*）等九大譯師，白若雜納編寫規範譯語的工具辭書。贊普赤祖德贊（*ཞི་གཙུག་ལྷེ་བཙན།* 806—841 CE，通稱“赤熱巴巾（*ཞི་རལ་པ་ཙན།*）”）時期，召集藏印大學者和大譯師統一譯名、規定譯例，確定了函、卷等的標準，結合梵文和藏語的特點對一些佛經術語進行了官方厘定。當時西藏譯師噶瓦白澤（*གླ་བ་དཔལ་བཟུགས།*）、角若魯益堅贊（*ཙན་ར་ལྷུ་རྒྱལ་མཚན།*）、祥益西德（*ཁང་ཡེ་ཤེས་ལྷེ།*）⁽¹³⁾等與印度班智達茲納米扎（*བཟླེད་རྩོན་མེ་གྲ།*）、達納吸拉（*དྲ་ན་ཤི་ལ།*）對舊譯進行修訂，厘定佛教經論的術語後撰寫了《語合二章》及標準的藏梵對照詞典《翻譯名義集》，對翻譯規則做了明確的規定。正如在《語合二章》中所記載，在當時是把從梵文翻譯的《寶雲經》和從漢文翻譯的《楞伽經》作為了第二次厘定的標本和譯例。《語合二章》《翻譯名義集》可謂是早期的佛教經典術語對照詞典，其中的很多術語詞語都源自《寶雲經》。

五、結語

作為佛教早期出現的大乘經典，《寶雲經》在三大語系佛教中的地位都是獨特而重要的。尤其對藏傳佛教來說，《寶雲經》對其教義教理的形成和完善起到非常重要作用。同時，經過對比藏文厘定前後的《寶雲經》譯文，發現許多藏文名詞術語的變化過程，《寶雲經》的翻譯極大地豐富了藏文經教名相的內容。布達拉宮梵文本的發現開啟了學術界對這一版本的研究，隨著研究的進展和深入，期待《寶雲經》能夠為國際佛教研究增添異彩。

(12) Otokawa1999 只在 Tabo 的殘本找到 6 個引文，實際上，由其他寫本殘本，共有 16 個引文，這些都在整理中。【Otokawa, Bun'ei. "New fragments of the *rNal 'byor chen por bsgom pa'i don* from Tabo." *Tabo studies II: manuscripts, texts, inscriptions, and the arts*. Eds. C. A. Scherrer-Schaub, Ernst Steinkellner, and Paul M. Harrison. Serie orientale Roma; vol. 87. Roma: Istituto italiano per l'Africa e l'Oriente, 1999. 99-161.】

(13) 噶瓦白澤、角若魯益堅贊為赤熱巴巾（贊普赤祖德贊）時期的譯師，祥益西德為美阿聰（*མེ་ཨ་ཙན།*）即迎娶了金城公主的第三十六代吐蕃贊普尺帶珠丹（*ཞི་ཤེ་གཙུག་བཙན།*）時期的譯師。